

# 目 次

## こども福祉科 保育士コース 2年

### A 厚生労働省指定科目

\*…豊岡短期大学通信授業科目との合同授業。  
豊岡短期大学通信教育部シラバス参照のこと。

#### 教養科目

憲法	町田 幸作	3
経済学	村中 典彰	4
情報リテラシーと処理技術	宮野 ゆかり	5

#### 専門的科目

こども家庭支援論	長谷 あゆみ	6
* こどもの理解と相談支援	高橋 裕	
こどもの保健	奥野 啓子	7
こどもの食と栄養	坂岡 寿恵	8
* こどもの指導法「健康」	浦田 日出雄	
* こどもの指導法「環境」	武田 克江	
こどもの指導法「音楽表現Ⅱ」	折笠 美穂	
* 田中 智子		
房田 里枝		
乳幼児保育Ⅱ	谷内 智美	9
こどもの健康と安全	佐々木 章人	10
障害児保育Ⅱ	千葉 桂子	11
社会的養護Ⅱ	和田 晃尚	12
子育て支援	伊藤 礼美	13
保育・教職実践演習	佐々木 章人	14
* 特別支援教育	渡辺 隼人	
* こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	折笠 美穂	
* 田中 智子		
* 環境論	早坂 聡子	
こどもとリズム表現Ⅲ	道上 里奈	15
幼児造形	矢元 政行	16
こどもと音楽表現Ⅳ	折笠 美穂	17
田中 智子		
保育実習Ⅱ	谷内 智美	18
保育実習Ⅲ	房田 里枝	19
保育実習対策Ⅱ・保育実習指導Ⅱ（保育所）	谷内 智美	20
保育実習対策Ⅲ・保育実習指導Ⅲ（福祉施設）	房田 里枝	21
こどもと体育	矢幅 照幸	22

卒業研究	房田里枝	……………	23
保育制作Ⅱ	谷内智美	……………	24
障害者支援論	林 広康	……………	25
卒業研究Ⅱ	房田里枝	……………	26
卒業研究Ⅲ	房田里枝	……………	27
こどもと音楽表現Ⅵ	折笠美穂	……………	28
	田中智子		
手話Ⅱ	札幌聴覚障害者協会 (河村明子)	……………	29
体育	浦田日出雄	……………	30
環境Ⅱ	千葉洸太	……………	31

## A 本校独自科目

点訳	吉田重子	……………	32
応対論Ⅱ	三品あおい	……………	33
国語総合演習Ⅱ	浦田日出雄	……………	34
就職ガイダンスⅡ	小野千晴	……………	35

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
憲法	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
町田 幸作	-	
科目のねらい		
1. 社会生活における法的作用や役割について理解する。 2. 憲法・民法などの諸法律および社会福祉行政の基礎を理解する。 3. 基本的人権、権利擁護など社会福祉の援助に必要な知識を身に付ける。		
到達目標		
1. 法の成立過程を民主的手続きについての知識を踏まえながら学ぶ。 2. 憲法の基本理念について、具体的事例を通して学ぶ。 3. 民法規定の概要を知り、法律を基にした具体的な判断の仕方を学ぶ。 4. 労働関係の法規程を知り、就労のルールや労働者の権利を学ぶ。 5. 福祉現場における人権擁護について学ぶ。		
受講の心構え		
法律の知識は、社会の中でよりよく生活し幸せになるために必須です。法的根拠を基に物事を考察し判断する力を身に付けましょう。		
成績評価基準		
試験点数に授業態度や授業への参加状況などの平常点を加味して評価する。		
授業計画表		
1. オリエンテーション／法律とは 2. 民主主義と法の成立 3. 法の体系 4. 憲法の基本理念 5. 民法総則① 6. 民法総則② 7. 消費生活と法 8. 不法行為責任 9. 親族① 婚姻・離婚 10. 親族② 親権・親子 11. 親族③ 扶養・相続 12. 労働現場におけるルール① 労働基準法 13. 労働現場におけるルール② 雇用保険法 労災保険法 14. 福祉現場における人権擁護 15. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
『ポケット六法』有斐閣		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
経済学	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
村中 典彰	-	
科目のねらい		
経済の仕組みについて、家計・企業・自治体や政府、世界の視点から学び、グローバルな社会に生きる個人としての知識を身につける。		
到達目標		
家計を担う個人として、経済の仕組みを理解し、グローバルな経済の中に潜むリスクに留意する。		
受講の心構え		
一般科目であるも、授業を大切に考え、毎時の終わりに配付・記入したプリントを回収し、評価する。		
成績評価基準		
授業プリント50%、定期考査50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1 経済とは何か</li><li>2 経済活動の主体</li><li>3 日本やG7のGNP、NIの推移</li><li>4 資本主義経済の成り立ち</li><li>5 経済活動の歴史と変遷</li><li>6 世界経済の不安定化とその要因</li><li>7 外国為替と決済 クレジットカードの活用とリスク</li><li>8 日本経済の失速と財政再建</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
テキストは特に用いないが、インターネットや経済にかかる著書から自作プリントを作成し、毎時学生に配付する。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
情報リテラシーと処理技術	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
宮野 ゆかり	-	
科目のねらい		
保育現場でも IT 化が進み、知識やパソコン操作は必須である。実践で活かすことのできる知識と能力を習得することを目標とする。		
到達目標		
・ Word : お便りが作れる。 ・ Excel : 請求書が作れる。 ・ PowerPoint : 紙芝居が作れる。		
受講の心構え		
授業態度・提出物・試験を総合的に見て評価する。		
成績評価基準		
授業態度・提出物・試験を総合的に見て評価する。		
授業計画表		
1 Word① 基本操作 2 Word② 図形の取り扱い 3 Word③ ビジネス文書 4 Word④ 園だより 5 Word⑤ ラベル作成 6 Excel① 名簿作成 7 Excel② オートフィル 8 Excel③ データ抽出 9 Excel④ グラフ作成 10 Excel⑤ 請求書作成 11 PowerPoint① プレゼンの構成 12 PowerPoint② アニメーション 13 PowerPoint③ オリジナル制作 14 PowerPoint④ オリジナル制作 15 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
押田可奈子『すぐに使えてかんたん！かわいい！幼稚園・保育園のためのおたより文例&イラスト集』 技術評論社		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こども家庭支援論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長谷 あゆみ	-	
科目のねらい		
子どもの安心で安全な日々を保障し、その健やかな成長と発達のためには、子育て家庭への支援は欠かせません。「子どもの最善の利益」は何なのかを常に考え、家庭支援の方法を具体的にかつ社会的観点からも学びます。		
到達目標		
1, 子育て家庭への支援の意義・目的を理解する。 2, 個々の子ども理解・家庭（保護者）理解を深める。 3, 多様な支援の展開と保育現場での実際の援助を学ぶ。		
受講の心構え		
保育士の専門性を高める大切な内容となっています。現場での実際の子どものケアと家庭支援に活かせるよう積極的に学びましょう。配付されるレジメ・資料のファイリングを必ずして下さい。		
成績評価基準		
レポート・筆記試験（70%） 授業の取り組みや態度（30%）		
授業計画表		
1, オリエンテーション／家庭支援の意義 2, 保育士の子育て・保護者支援とは 3, 子どもの福祉を図るための社会資源 ①児童相談所 4, 子どもの福祉を図るための社会資源 ②子どもの福祉施設 5, 子どもの福祉を図るための社会資源 ③児童養護施設 6, 保育士の専門性ー保育所倫理要綱 保護者への対応 7, 保育士に求められる基本的姿勢ーバイステックの7原則・事例検討 8, 子育て家庭のハイリスク要因ー子どもの虐待・貧困など 9, 保育士の役割ー保育所保育指針改定のポイント 10, 前半のまとめ 11, 子どもへの具体的な対応とケア 12, グループワーク・事例検討会 13, 保育現場におけるソーシャルワーク 14, セルフケア／対人援助職についての総括 15, まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「松原康雄 他『新基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論』（中央法規）」 その他、随時授業時に資料を配付。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの保健	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥野 啓子	-	
科目のねらい		
① 子どもの発育・心身の健康状態を理解する。 ② 子どもに多く見られる代表的な疾患の予防・早期発見・対処方法の基礎知識を学ぶ。		
到達目標		
① 子どもの身体的な発育・発達と保健活動について理解できる。 ② 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ③ 子どもの疾病と予防方法および多職種連携について理解できる。		
受講の心構え		
最終試験は配付資料から出題します。資料は授業内に記入してください。宿題は授業の初めに発表してもらうので用意を忘れないでください。		
成績評価基準		
筆記試験 80% 出席状況・授業態度・課題 20%		
授業計画表		
1. 子どもの心身の健康と保健の意義 ①生命の維持と安定に係る保健活動 2. ②健康の概念と保健指導 3. ③現代社会における現状と課題 ④地域における保健活動と虐待防止 4. 子どもの身体的発育・発達 ①身体発育及び運動機能の発達と早期発見 5. ②生理機能の発達と保健 6. 子どもの心身の健康状態と把握 ①健康観察 ②不調時の早期発見 7. ③発達・発育の把握と健康診断 8. ④医療・機関・保護者との情報共有 9. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴 ①先天性の病気 10. ②循環器、呼吸器、消化器の病気 11. ③アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気 12. ④脳の病気、その他の病気 13. ⑤感染症 14. (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応 15. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『子どもの保健』豊岡短大 資料は初回授業時に配付します。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの食と栄養	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
坂岡 寿恵	-	
科目のねらい		
こどもの健全な発育・発達には、成長段階における適切な栄養摂取と食生活が重要であり、生涯にわたる食生活習慣の基盤をつくる大切な時期です。保育者として、こどもの食に直接かかわるための知識と技術を身につけます。		
到達目標		
1. 食と栄養に関する基礎知識と健康的な食生活の意義を習得する。 2. こどもの発育・発達段階に適切した食事支援ができる。 3. こどもの食生活の現状と問題点を把握し、食育の重要性の理解と実践力を身につける。		
受講の心構え		
授業を通して自分の食生活や世の中の食や栄養に関する情報に関心を持ちましょう。配付資料、プリントは必ずファイリングして毎回持参してください。確認テストがあります。授業への積極的な学びを望みます。		
成績評価基準		
筆記試験70% レポート・確認テスト20% 出席状況・授業姿勢10%		
授業計画表		
1. こどもの栄養・食生活の意義、こどもの食生活の現状と課題 2. こどもの身体発育と栄養状態の評価、食べる機能の発達 3. 栄養・食生活の基礎知識① 4. 栄養・食生活の基礎知識② 5. 栄養・食生活の基礎知識③ 6. 妊娠・授乳期の栄養と食生活、乳児期の栄養と食生活 7. 乳児期の栄養と調乳実習 8. 離乳期の意義と離乳食 9. 離乳食の調理実習 10. 幼児期の栄養と食生活 11. 幼児食の調理実習 12. 学童期・思春期の栄養と食生活、児童福祉施設における食生活 13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 14. こどもの食育（演習） 15. 授業のまとめ・考察		
使用テキスト・参考文献		
久保田絹江『子どもの食と栄養』豊岡短期大学 参考文献は授業内で適宜紹介します。		
		授業時にプリントを配付します。



# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
乳幼児保育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容に関わる実務に保育士として5年以上の経験を有する	
科目のねらい		
乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期です。また、子どもが「人」として生きていくうえで基本となる心情・意欲・態度の基礎を習得し、その力を活用して人格を形成していく大切な時期です。その大切な時期を保育する大人であることの重要性を理解し、保育者としての人間性と専門性を身に付けていきます。		
到達目標		
・乳幼児保育における保育の実際と配慮事項について具体的に理解する。 ・演習を通し、実践に役立つ知識や「考える力」を養う。		
受講の心構え		
1年次の乳幼児保育（講義）からの続きになります。プリントは同じファイルに綴じてください。保育士の資格を持つ自覚を持ち、意欲的に参加してください。		
成績評価基準		
授業の取り組みやまとめを踏まえ、総合的に評価します。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1 オリエンテーション／乳児保育の基本</li><li>2 0歳児クラスの実態（生活・環境・援助）</li><li>3 1歳児クラスの実態（生活・環境・援助）</li><li>4 2歳児クラスの実態（生活・環境・援助）</li><li>5 乳児保育における配慮</li><li>6 長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別の指導計画について</li><li>7 計画の振り返りについて</li><li>8 授業のまとめ</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
・授業時にプリントを配付します ・寺田清美・大方美香・塩谷香「乳児保育Ⅰ・Ⅱ新・基本保育シリーズ⑮」中央法規 ・フレーベル館『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの健康と安全	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
佐々木 章人	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育士としてこどもの安全、事故防止についての知識・技術・視点を身に付ける		
到達目標		
保育をする上の危険予測、安全な保育を身に付け、現場で実践できる		
受講の心構え		
配付資料はファイリング 内容によってはレポート提出		
成績評価基準		
レポート 40%、小テスト 40%、授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1、自己紹介（講師・学生）・オリエンテーション・各種マニュアル説明</li><li>2、各種マニュアル説明（前回の続き）</li><li>3、園内、散歩先での危険とはを学ぶ</li><li>4、散歩（実際に散歩をして危険を学ぶ）演習</li><li>5、公園へ散歩（公園での危険性を学ぶ）演習</li><li>6、ヒヤリハット・事故報告書とは？実際に記入してみる</li><li>7、避難訓練・災害時・感染症・危機管理の対応を学ぶ</li><li>8、授業のまとめ（レポート・小テスト）</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
講師作成の資料配付		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害児保育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 桂子	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障害児保育の歴史を知る。 障害児保育の実際について学ぶ。		
到達目標		
障害児保育を支える理念や歴史の変遷を知り、理解を深める。 支援者として求められる専門性について理解する。 障害児保育の実際について、個別の支援計画や指導計画など具体的な支援の仕方を通して学ぶ。		
受講の心構え		
保育の現場には障害の有無に関わらず様々な支援が必要な児がいます。現場での状況や取組みを伝え、実技も取り入れながら進めます。毎回配付する資料は必ずファイルし持参してください。ミニレポートの提出もあります。		
成績評価基準		
まとめのテスト 60%、小テスト 20%、出席及び授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1 障害児保育の変遷</li><li>2 障害児の理解と支援</li><li>3 発達障害児の理解と支援</li><li>4 療育機関と保育機関の連携と発達の支援</li><li>5 障害児保育の実際①（保育内容と方法）</li><li>6 障害児保育の実際②（指導計画の作成と記録及び評価）</li><li>7 保育者の家族に対する理解と支援</li><li>8 まとめ</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
使用テキスト：西村重稀・水田敏郎『新基本保育シリーズ 17 障害児保育』中央法規 ・毎回、資料配付（各自でファイルし、毎回持参してください） ・参考文献は、必要に応じ授業時に提示		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会的養護Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
和田 晃尚	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
この科目は、児童福祉施設に入所している子どもたちやその家族への支援で求められる子どもの理解の視点や家族支援の在り方等の援助技術について、講義や演習を通して学びます。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"><li>・社会的養護にかかわる保育士等の専門職に必要な知識や技術を習得する。</li><li>・社会的養護にかかわる保育士等の専門職が果たすべき役割を理解する。</li></ul>		
受講の心構え		
1年次に受講した「社会的養護」の授業内容をよく復習した上で授業に臨んでください。積極的な授業参加を期待します。		
成績評価基準		
テスト(レポート)80%、出席状況や授業態度 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 社会的養護における生活支援の実際①</li><li>2. 社会的養護における生活支援の実際②</li><li>3. 社会的養護における子どもの権利擁護</li><li>4. 虐待を受けた子どもの理解とケア, 治療的養育の実際</li><li>5. 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術①</li><li>6. 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術②</li><li>7. 社会的養護におけるソーシャルワーク</li><li>8. 社会的養護にかかわる保育士等の倫理と責務</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
伊藤嘉余子, 小池由佳編著, 2017, 『はじめて学ぶ子どもの福祉6 社会的養護内容』 ミネルヴァ書房 その他毎回の授業開始時に資料を配付。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
子育て支援	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
伊藤 礼美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育の専門性をいかした子育て家庭や保護者に対する相談援助の実際や支援方法を学び保護者の「親育ち」を支援する知識・技術・価値観を理解する。		
到達目標		
子育て家庭に対して保育者が行う相談の支援の内容とその実際を具体的に里香氏保育現場で少しでも活用できることを目指す。		
受講の心構え		
子育て支援の取組みについての情報を自分でも調べて興味関心をもち学んで欲しいです。		
成績評価基準		
授業取り組み30%、提出物20%、試験50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 子育て支援とは、子育て支援の意義</li><li>2. 演習～絵本について</li><li>3. 演習～ふれあい遊び</li><li>4. お便りや文書を活用した子育て支援</li><li>5. 子育て支援の基本的技術・事例検討</li><li>6. 演習～子育て支援で活用できる玩具</li><li>7. 地域の子育て支援の関係機関と社会資源活用方法</li><li>8. 授業のまとめ</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
「保育所保育指針解説書」 フレーベル館		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育・教職実践演習	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
佐々木 章人	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育の現場をリアルに知る。 保育士としての技術、知識を身に付ける。		
到達目標		
自分の保育士像を確立できる。 即戦力となる新人保育士になる。 保育士になることを誇りに思う。		
受講の心構え		
保育士になる心構え・配付書類ファイリング・レポート提出		
成績評価基準		
レポート 30%、小テスト 30%、演習 40%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1・2、自己紹介・授業の流れ説明・保育士とは・自分の園をつくる オリエンテーション・絵本の読み聞かせについて</li><li>3、年間計画作成・行事計画作成・模擬職員会議</li><li>4、年間行事① 計画作成・模擬職員会議</li><li>5、年間行事② 計画作成・模擬職員会議</li><li>6、年間行事③ 計画作成・模擬職員会議</li><li>7、クラス便りを作成①</li><li>8、クラス便りを作成②</li><li>9、集団遊び・遊びの効果</li><li>10、集団遊び（演習）①</li><li>11、集団遊び（演習）②</li><li>12、製作遊び・製作の効果</li><li>13、製作遊び（演習）①</li><li>14、製作遊び（演習）②</li><li>15、レポート・小テスト・フリートーク</li></ol> <p>毎回：交代で朝の会（手遊び・絵本）を担当する・講師が絵本の読み聞かせを実施</p>		
使用テキスト・参考文献		
講師作成の資料配付		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもとリズム表現Ⅲ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	授業内容に関わる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	保育の現場に携わる者として、子どもと一緒に表現する喜びや楽しさを知っていく必要があります。子どもと一緒に表現する前に、まずは保育者自身が表現者として子どもに伝えなくてはなりません。その経験をするための授業です。	
到達目標	楽器の扱い方、計画の立て方や指導法を含めて考える。また、さまざまなリズム表現やリズム遊びなどを知り、人前で表現者として発表し、自信をつける。	
受講の心構え	子どもになりきって表現することや、楽器や歌に触れ、一緒に楽しんでください。また、楽器の使い方、わらべうた、手遊びなどを知る機会として、この授業を有効活用できるよう、意欲的に学んでください。	
成績評価基準	授業態度や発表や参加意欲などで総合的に評価します。	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none"><li>1. オリエンテーション／手遊びの発表</li><li>2. 体操、ダンスの紹介</li><li>3. 体操、ダンスの練習</li><li>4. 体操、ダンスの発表</li><li>5. わらべうたについて</li><li>6. リトミックについて</li><li>7. 楽器の紹介／グループ分け</li><li>8. 合奏練習</li><li>9. 合奏練習</li><li>10. 合奏練習</li><li>11. 合奏練習</li><li>12. 合奏練習</li><li>13. 合奏練習</li><li>14. 音楽発表会</li><li>15. まとめ</li></ol>	
使用テキスト・参考文献	特にありません。プリントを配るので整理するためのファイルがあるといいと思います。	

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
幼児造形	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元 政行	-	
科目のねらい		
保育実習に向けて取り扱う造形活動の教材についての必要な知識や技術を学び、さらに造形の方法・用具の扱いなど実技を通して体験的に学習する。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"><li>・実習に向けた造形活動において、発達段階を踏まえた素材や技法、指導や援助について理解できる。</li><li>・えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域、行事等における造形活動について実習で使える教材研究を行い習得できる。</li><li>・教材研究及び作品発表を行うことで思考力や表現力を高める。</li></ul>		
受講の心構え		
保育実習に向けて、より実践的な造形教材について学びます。授業で使う道具等を忘れないこと、配付資料は、ファイリングしてください。演習後は感想を提出してもらいます。		
成績評価基準		
製作課題60%、プリント提出20% 出席率授業態度20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1.保育・教育実習に向けた造形活動の指導案の作成について</li><li>2.実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習</li><li>3.実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習</li><li>4.実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習</li><li>5.実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習</li><li>6.実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習</li><li>7.実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習</li><li>8.まとめ</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに」 毎回、授業開始時に資料を配付		



# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態																
こども福祉科 合同	2年次	実習																
科目名	授業回数	授業時間																
こどもと音楽表現Ⅳ	8回	15時間																
担当者氏名	担当者実務経験																	
折笠 美穂 ・ 田中 智子	-																	
科目のねらい																		
<p>様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。ピアノで弾ける曲のレパートリーを増やし伴奏としてのピアノ技術を学ぶ。歌うこと、楽器を演奏することを通して音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かすどのように発展させていくか考えながら技術を学ぶ。</p>																		
到達目標																		
<p>歌の伴奏法を学び実践に役に立つ力をつける。各自の進度に合わせて簡易伴奏を用いる。</p>																		
受講の心構え																		
<p>保育活動でその曲をそのように使用するか考えて選曲し、レパートリーを増やし伴奏として歌えるように練習をしてください。</p>																		
成績評価基準																		
<p>実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。 実技試験 80%・授業態度 10%・練習状況など 10%</p>																		
授業計画表																		
<table border="0"> <tr> <td>1. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>2. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>3. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>4. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>5. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>6. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>7. ピアノの技術向上の為の演習</td> <td>グループでの表現活動の演習</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ</td> <td>それぞれの成果を発表</td> </tr> </table>			1. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	2. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	3. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	4. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	5. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	6. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	7. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習	8. まとめ	それぞれの成果を発表
1. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
2. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
3. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
4. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
5. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
6. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
7. ピアノの技術向上の為の演習	グループでの表現活動の演習																	
8. まとめ	それぞれの成果を発表																	
使用テキスト・参考文献																		
<p>小林美実編『こどものうた200』『続こどものうた200』チャイルド本社 その他授業で配付したプリント等</p>																		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅱ	15日間	135時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身に付ける。</li><li>2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。</li><li>3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。</li><li>4. 職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。</li><li>5. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。</li><li>6. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。</li><li>7. 安全および疾病予防への知識を身に付ける。</li></ol>		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 保育所保育の実際に触れ、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。</li><li>2. 家庭と地域の生活実態を把握し、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。</li></ol>		
受講の心構え		
卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。		
成績評価基準		
実習施設からの評価70%、実習日誌等の記録物・実習報告などの評価30%を総合的に評価。		
授業計画表		
<p>○実習先 札幌市内および札幌近郊保育所</p> <p>○保育所における実習期間 令和6年6月10日(月)から令和6年6月28日(金) 【期間内で15日間】</p>		
使用テキスト・参考文献		
実習の手引き 他		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅲ	15日間	135時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。</li><li>2. 家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</li><li>3. 施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する。</li></ol>		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 児童福祉施設、障害者支援施設等と機能を学ぶ。</li><li>2. 施設における支援を体験し、利用者に対する受容・共感的態度を学ぶ。</li><li>3. 個々の利用者のニーズ把握を通して個別支援計画について学ぶ。</li><li>4. 施設保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。</li><li>5. 多様な専門職との連携や地域社会との連携を学ぶ。</li><li>6. 施設保育士としての自己課題を明確化する。</li></ol>		
受講の心構え		
卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。		
成績評価基準		
実習施設からの評価70%、実習日誌等の記録物・実習報告などの評価30%を総合的に評価。		
授業計画表		
○実習先 希望する児童福祉施設及び福祉施設 ○実習期間 令和6年6月10日(月)～令和6年6月28日(金) 【期間内で15日間】		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい出版 厚生労働省告示『保育所保育指針』フレーベル館/実習の手引き配付		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習対策Ⅱ・保育実習指導Ⅱ	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 実習を円滑に進めていくため知識や技術の習得をするとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習を通して培った保育士としての資質・能力・技術を踏まえて、自己の課題を明確化させる。 ※保育実習指導Ⅱ（8時間）と保育実習対策Ⅱ（8時間）を併せて行うこととする。		
到達目標		
1. 保育所実習に必要な知識・技術を習得するとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習後の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。		
成績評価基準		
授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価。		
授業計画表		
1. 実習の意義・目的・概要の説明・個人票の作成 2. 実習の抱負・実習課題の作成① 3. 実習課題の作成② 4. 実習先事前訪問 5. 年齢別遊びの展開～指導案作成① 6. 年齢別遊びの展開～指導案作成② 7. 年齢別遊びの展開～指導案作成③ 8. 年齢別遊びの展開～模擬保育④ 9. 実習日誌の取り扱い・記録の書き方 10. 事前集中指導① 11. 事前集中指導② 12. 事後集中指導① 13. 事後集中指導② 14・15 実習報告会 16. 1年生とのディスカッション		
使用テキスト・参考文献		
実習の手引き、配付資料、『保育所保育指針』フレーベル館		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習対策Ⅲ・保育実習指導Ⅲ	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育実習Ⅲ(施設)に必要な知識・技術を習得するとともに、自ら学習内容・課題を明確にする。 2. 実習終了後、実習の総括と自己評価を行い、自己の学びを確認するとともに今後の課題を明確にする。 ※保育所指導Ⅲ(施設)8時間と保育実習対策Ⅱ(施設)8時間を併せて行うこととする。		
到達目標		
《事前指導》 実習施設の制度的位置づけ、利用者と援助方法の概要、職員と業務内容について学ぶ。 実習記録や実習計画を学ぶとともに、人権尊重・守秘義務などの留意事項を学ぶ。 《事後指導》 実習の成果を個別に報告し、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。		
成績評価基準		
授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価。		
授業計画表		
1. 実習の意義・目的・概要の説明・個人票作成 2. 実習の抱負・実習課題の作成① 3. 実習課題の作成② 4. 実習先事前訪問 5. 実習課題の作成③ 6. 実習課題の作成④ 7. 個別指導計画の考え方① 8. 個別指導計画の書き方② 9. 実習日誌の取り扱い・記録の書き方 10. 事前集中指導① 11. 事前集中指導② 12. 事後集中指導① 13. 事後集中指導② 14. 実習報告会 15. 実習報告会 16. 1年生とのディスカッション		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい出版		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと体育	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢幅 照幸	-	
科目のねらい		
乳幼児期における運動遊びの意義を理解し、乳幼児の発達に応じて、多様な動きを経験させることができる「運動遊び」の指導方法を身に付ける。		
到達目標		
1、多様な観点から「運動遊び」の指導内容を主体的に計画することができるようになる。 2、集団に対して、個別性と安全面に配慮した「運動遊び」の指導を実践することができるようになる。		
受講の心構え		
自ら学ぶ意欲を持ち、積極的にからだを動かすことを心掛けること。授業に際しては、体調の管理に十分に留意し、運動に適した服装と体育館シューズを着用し、装飾品（時計やネックレスなど）は外して長髪は束ねるようにする。		
成績評価基準		
授業への取り組み 50%、提出物・模擬授業（指導計画・実践） 50%		
授業計画表		
1. 器具を使わない運動遊び（体づくり運動1） 2. 器具を使わない運動遊び（体づくり運動2） 3. ボール等を使った運動遊び 4. 身近なものを活用した運動遊び 5. 絵本を使った運動遊び 6. 運動遊び指導計画1 7. 運動遊び指導計画2 8. 模擬授業（指導計画と実践）		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付します。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. オリエンテーション リーダー、副リーダーを決めて卒業制作に向けて主として動く担当者を決める。 題材を選ぶ。</li><li>2. 題材や主な内容を決めて、大道具・小道具・背景・衣装に担当分けをする。 題材が決まり次第、キャスト・器楽・黒子・音響・照明の担当分けをする。</li><li>3. グループごとに製作</li><li>4. グループごとに製作</li><li>5. グループごとに製作</li><li>6. グループごとに製作・完成</li><li>7. 製作物の補正・修正</li><li>8. 台本に合わせた必要な音楽を話し合う。</li><li>9. 台本に合わせた必要な音楽を選曲し必要な楽器を選ぶ。</li><li>10. 曲に合わせて楽器合奏を考え、歌詞を考える。</li><li>11. 選曲させた曲のパートを決め練習する。</li><li>12. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。</li><li>13. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。</li><li>14. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。</li><li>15. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直し、楽曲を完成させる。</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
絵本、様々な楽譜など		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育制作Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・保育教材の目的やねらいを理解し、子どもと一緒に楽しむことができるような保育教材を計画し作成する。 ・これまでの学びや実習での経験を生かし子どもの姿をイメージしながら表現・応用・展開し実践を行う。		
到達目標		
・年齢、行事、季節などを踏まえねらいを設定し、子どもが楽しめる保育教材を考え計画し、作成する。 ・これまでの実践や課題を通し身に付けた演技力・応用力・展開力を生かし、教材を使用した実践を行う。 ・実施後には振り返りを行い、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
これまでの学びを生かし、実際に現場で使用できる教材づくりをしていきましょう。 制作時間を大事に、子どもの楽しむ姿をイメージしながら計画性を持って制作できると良いです。		
成績評価基準		
授業態度、参加意欲や制作物の進行状況、計画性や発表したものを含め、総合的に評価します。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1 オリエンテーション／計画①</li><li>2 計画②・制作①</li><li>3 制作②</li><li>4 制作③</li><li>5 制作④</li><li>6 制作⑤</li><li>7 実践発表①</li><li>8 実践発表②／授業のまとめ</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
特にテキストはありませんが、保育雑誌などを参考にするといいと思います。また、実習などで実際に教材を使用した保育に参加できた場合は、その時の様子などメモしておくとう活用できると思います。		



# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害者支援論	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
林 広康	-	
科目のねらい		
障害とは？何かを知ってもらう。障害を持った方々は特別ではなく、自分たちと変わらず生活している中で、人と人の関りであることを学んでもらう。		
到達目標		
障害を持つ方々の支援について障害を知り、またどのような生活をしているか？生活する中でどのようなサービスがあるかを知る。		
受講の心構え		
配付資料はファイリングすること。積極的に授業に参加することを期待します。		
成績評価基準		
出席、授業姿勢 50% 事例検討 30% テスト 20%		
授業計画表		
1. ①オリエンテーション 講師自己紹介 授業計画説明 ②障害とは何かについて考える お互いを知りあうこと（学生に自己紹介をしてもらいます）		
2. 福祉サービスについて 障害のある方々が生活するうえで利用できるサービスについて		
3. コミュニケーションの取り方について		
4. 虐待防止と権利擁護について		
5. 個別支援計画と作成方法について		
6. 事例検討（グループディスカッション）		
7. 事例検討（グループディスカッション）		
8. テスト		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付します。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 各パート練習1</li><li>2. 各パート練習2</li><li>3. 各パート練習3</li><li>4. 各パート練習4</li><li>5. 各パート練習5</li><li>6. 合同練習1</li><li>7. 合同練習2</li><li>8. 合同練習3</li><li>9. 合同練習4</li><li>10. 合同練習5</li><li>11. 合同練習6</li><li>12. 総合練習1</li><li>13. 総合練習2</li><li>14. 総合練習3 (会場設営)</li><li>15. 総合練習4 (会場設営)</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究Ⅲ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
到達目標		
1. オペレッタの内容に合わせ、背景、大道具、小道具、衣装の製作を行う。 2. 台本にあわせ、オペレッタの表現にふさわしい音楽を創作して歌詞を考え、場面にあった楽器、効果音、BGMを考え演奏する		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
1. 各パート練習1 2. 各パート練習2 3. 各パート練習3 4. 各パート練習4 5. 各パート練習5 6. 合同練習1 7. 合同練習2 8. 合同練習3 9. 合同練習4 10. 合同練習5 11. 合同練習6 12. 総合練習1 13. 総合練習2 14. 総合練習3 15. 評価と反省		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態																
こども福祉科 保育士コース	2年次	実習																
科目名	授業回数	授業時間																
こどもと音楽表現VI	8回	15時間																
担当者氏名	担当者実務経験																	
折笠 美穂 ・ 田中 智子	-																	
科目のねらい																		
<p>様々の表現活動ができるように技術の向上を目指す。曲のレパートリーを増やし就職に向けて歌の伴奏としてのピアノ技術を学ぶ。グループでうたを歌ったり、楽器演奏をとおして音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かすどのように発展させていくかを学ぶ。</p>																		
到達目標																		
<p>こどものうたの弾き歌いや伴奏法を学び就職に向けての力をつける。それぞれの進度に合わせてコードや簡易伴奏を用いて歌の伴奏をする技術を学ぶ。音程やリズムを正確に演奏することを目指す。歌や楽器演奏を通してグループとしての表現活動を学ぶ。</p>																		
受講の心構え																		
<p>新しい曲や今まで練習してきた曲を発表することで人前での演奏に慣れる。その中から保育士として現場でどのように用いていくか想像しながら各自で練習しレパートリーを増やして行ってください。</p>																		
成績評価基準																		
<p>実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。 実技試験 80%・授業態度 10%・練習状況など 10%</p>																		
授業計画表																		
<table border="0"> <tr> <td>1. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>2. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>3. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>4. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>5. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>6. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>7. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ</td> <td>それぞれの成果を発表</td> </tr> </table>			1. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	2. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	3. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	4. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	5. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	6. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	7. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動	8. まとめ	それぞれの成果を発表
1. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
2. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
3. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
4. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
5. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
6. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
7. こどものうたの弾き歌いの演習 (就職に向けて)	グループでの表現活動																	
8. まとめ	それぞれの成果を発表																	
使用テキスト・参考文献																		
<p>小林美実編『こどものうたの200』『続こどものうたの200』チャイルド本社 その他授業で配付したプリント等</p>																		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
手話Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
河村 明子	-	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none"><li>・聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。</li><li>・聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活など身近な話題に関する手話表現を学びながら、更にコミュニケーション意欲を高めます。</li></ul>		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、日常的な会話ができる。</li><li>2. 全国手話検定4・5級合格を目指す。</li></ol>		
受講の心構え		
手話を習得するために、講師の手話表現をしっかりと見て、積極的に手を動かすこと。 各自でも手話を学べるように復習をすること。		
成績評価基準		
実技試験（スピーチ・手話表現）70% 授業への取り組み姿勢と手話実技の習得度を30%評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. ガイダンス 復習「自己紹介」</li><li>2. ステップアップ：話してみましよう①「趣味、仕事、住所」</li><li>3. ステップアップ：話してみましよう②「時に関する手話」</li><li>4. ステップアップ：話してみましよう③「疑問詞を使って会話①」</li><li>5. ステップアップ：話してみましよう④「疑問詞を使って会話②」</li><li>6. ステップアップ：話してみましよう⑤「色の手話」</li><li>7. ステップアップ：話してみましよう⑥「会話をしてみましよう」 手話検定に向けての学習</li><li>8. まとめ</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会 参考資料 「DVDで学ぶ手話の本」全国手話検定試験5級対応・4級対応（社会福祉法人全国手話研修センター） 「わたしたちの手話学習辞典Ⅰ」（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局）		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
体育	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい		
身体活動を通して、心身の健康保持の大切さをしる。体力の向上とともに、公正・協力・責任などの態度を養う。生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ態度や能力を養う。		
到達目標		
運動に臨む態度や約束事を理解し実践する。各種の運動やスポーツに親しむことができる。せいとくスポーツ大会に向けて、協力し練習することができる。		
受講の心構え		
授業準備、用具の準備、後片付け、運動への積極的な取り組みを期待します。		
成績評価基準		
授業姿勢 30% 運動への取り組み 40% 運動技能 30%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 授業を進める上での約束事・取り組む姿勢の確認。ミニバレーボールに親しむ。</li><li>2. バレーボールに親しむ。(ルールの理解、サーブ、レシーブ、トス、スパイク)</li><li>3. バレーボールに親しむ(ゲームなど)</li><li>4. 長縄跳びをする。バドミントン(シングルス)に親しむ(ルールの理解、基本練習)</li><li>5. バドミントン(ダブルス)に親しむ。(ゲームなど)</li><li>6. キックベースボールに親しむ。</li><li>7. 卓球(シングルス)に親しむ。(ゲームの理解、基本練習、ゲームなど)</li><li>8. 卓球(ダブルス)に親しむ。(ゲームなど)</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
環境Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 洸太	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
自然環境とこどもの繋がり の理解と、実践力の獲得。		
到達目標		
こども環境管理士2級取得相当の知識を身につける。		
受講の心構え		
講義だけではなく、実際の自然環境に触れる時間も設けます。汚れてもいい服装や、汚れる可能性があることと心得て受講すること。		
成績評価基準		
筆記試験 80% 授業態度及び提出物 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. こども環境管理士とは こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然①（自然の構成）</li><li>2. こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然②（エネルギー）</li><li>3. こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然③（条例、海外の自然環境）</li><li>4. こどもと自然環境Ⅱ 自然環境との繋がり①（自然環境との共存、国の対策）</li><li>5. こどもと自然環境Ⅱ 自然環境との繋がり②（環境に配慮した生活 i）</li><li>6. こどもと自然環境Ⅱ 自然環境との繋がり③（環境に配慮した生活 ii）</li><li>7. 授業のまとめ</li><li>8. テスト (こども環境管理士2級を受験する学生は、後日試験にも臨む)</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じて資料を配付		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
点訳	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 重子		
科目のねらい		
点字の書き方の基本を習得するとともに、視覚障害者を取り巻く社会環境、生活上の不便さ等の一端を学ぶことを通して、よりよい支援を考えるきっかけとする。		
到達目標		
・連絡事項や私信など、日常生活上の情報を伝えられる程度の点字を書くことができる。 ・視覚障害の種類、日常生活用具、余暇の利用の可能性など、視覚障害者を取り巻く社会環境の一端を知ることができる。		
受講の心構え		
毎時配付するプリントをしっかりと読んで、点訳演習に取り組むこと。		
成績評価基準		
レポート課題60%、授業への取り組み（発言や毎時行う演習提出物等）40%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>点訳：点字の仕組み、点字器の使い方、50音の習得（清音・濁音） トピックス：点字の歴史</li><li>点訳：拗音・拗濁音・数字の習得 トピックス：視覚障害の定義、疾患や見え方等</li><li>点訳：点字表記法の特徴（助詞の表記等）の習得 トピックス：視覚障害者用日常生活用具・学習用具の紹介</li><li>点訳：文の書き方。分かち書きの基本の習得 トピックス：街中で見かける点字について</li><li>点訳：文の書き方、分かち書きの基本の習得 トピックス：視覚障害者と余暇の利用（スポーツ）</li><li>点訳：文章の書き方、分かち書きの習得、指先で点字を読む体験 トピックス：視覚障害者と余暇（映画鑑賞、読書等）</li><li>点訳：文章の書き方、書式の基本の習得、アルファベットの習得 トピックス：視覚障害児と玩具（健常児とともに遊べる「共遊玩具」の紹介）</li><li>点訳：文章の書き方、書式の基本の習得、アルファベットの習得 トピックス：視覚障害児・健常児、子供同士の関わりを促す支援の在り方</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
全国資格障害者情報提供施設協会『初めての点訳 第3版』 吉田重子『点字からはじまるメッセージ』北海道新聞出版局		



# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
三品 あおい	-	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none"><li>・2年生になり、毎回より実践的な内容に取り組みます。</li><li>・マナーを通して円滑なコミュニケーションを図り、より円滑な人間関係を築くことをねらいとします。</li></ul>		
到達目標		
「挨拶」「身だしなみ」「言葉づかい（敬語）」と言った、社会人として必須・基本的なことを日々の学校生活から実践する。		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場であるので、授業で学んだことを積極的に実践して習慣にしましょう。挨拶や敬語などマナーは他の教科や日常生活でも身につきます。欠席した場合は、次の授業で支障がないように、事前に他の学生のノートやテキストで確認しましょう。		
成績評価基準		
筆記試験25%・実技試験25%・平常点（授業での取り組み50%）の総合評価		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1.円滑な人間関係を築くためのマナー</li><li>2.就職面接のマナー・第一印象の重要性</li><li>3.就職面接のマナー（アポイントメントの取り方・訪問等）</li><li>4.就職面接のマナーの実践</li><li>5.保育者の職場（保護者他）へのマナー（守秘義務・SNS等）</li><li>6.保育者の職場（上司・先輩・同僚）へのマナー（報連相・敬語・整理整頓等）</li><li>7.社会に出て役立つマナー（冠婚葬祭・食事のマナー・お礼状等）</li><li>8.まとめ・試験</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
テキスト 「マナー&プロトコルの基礎知識」NPO法人 日本マナープロトコル協会		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい		
自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。		
到達目標		
字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。		
受講の心構え		
伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。		
成績評価基準		
まとめの試験 60% プリント提出 20% 授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 個人票を作成する。</li><li>2. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。礼状の書き方。</li><li>3. 礼状の書き方を知る。</li><li>4. 履歴書について理解する。同音異義語を練習する。</li><li>5. 履歴書を書く。同訓異義語を練習する。</li><li>6. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。</li><li>7. 四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。</li><li>8. ことわざについて知る。まとめの試験をする。</li></ol>		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

# 講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンスII	5回	10時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・実習など学校スケジュールがある中で、いつ、何をするのか具体的な行動を理解し、各自が主体的に考え、行動できることを目指す。		
到達目標		
1. 進路について、主体的に考え、取り組める。 2. 就職活動に必要な知識や技術を認識し、獲得する。 3. 就職試験の傾向と対策を学び、自らの就職活動に反映させ行動する。		
受講の心構え		
希望する進路は、自分で「掴み取る」ものです。「実現してもらう」ものではない。希望する進路を掴み取るために、一緒に考え行動しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする。		
授業計画表		
1 前年度求人・内定の流れ、就職活動のきまりと受験等各種手続きについて 2 求人票を見るポイント 3 長期休みとそれ以降の具体的な就職活動について 4 分野別ガイダンス・就職試験に向けた対策 5 内定者・未定者指導		
使用テキスト・参考文献		
学校から資料配付		